



ナンガパルバット登頂記 群馬県ナンガパルバット

登山隊2005

隊長 剣持典之



ディアミール氷河横断

「七月十五日、午後二時二十三分、ナンガの頂に立った。あとは皆を待ち下山するのみ。無事に全員BCまで。」

委員長就任以来、登山隊を組織する事で頭を抱えていた。鉄の結束を誇った群馬の海外登山も今はドン底状態。今のままでは海外はおろか日本の山を登るのも危うい。そんな時期、頼れる仲間が岳連に入会してきた事で、遠征計画が現実味を帯びてきた。海外経験も豊富でやる気もありそうだ。

「どの山を狙う?」。八〇〇〇m 峰は外せない、そして無酸素、シエルパレス、群馬で未挑戦、名塚さんの力を借りるため、名塚さんの登っていない山。そして自分が登りたかった山。狙いはナンガに決まり、ルートは西面、一九六二年に登られたディアミールルートから頂上を目指す!

登山隊員は名塚、吉田、中村、飯塚、須永、そして自分。隊長を誰がやるか? 悩んだ挙句に八木原さんに相談した。「名塚の名前を使え。名塚を隊長にしてお前達が動けばいいんだ。名塚のネームバリューを利用しろ」そう言われた。

しかし、その事を打ち明ける前に、名塚さんはアンナに逝ってしまった、名実ともに自分が隊長を務める事になってしまった。

名塚さんの突然の遭難に、岳連内は暗く落ち込んでいた。隊員達に遠征参加の意思を確認すると「何とかがんばりましょう」。うれしい返事が返ってきた。岳連の先輩や仲間、県外の仲間達も応援してくれた。

そして心強い事に名古屋の田辺さんが参加してくれる事になり、登頂の確率と安全率が一気に高まった。国内の準備、特に渉外は何から手を付けていいのか正直分からなかったのだ。岳連の先輩は勿論、ヒマラヤ協会の先輩達にもアドバイスをしてもらい、国内の作業は少しずつだが確実に進んでいた。

その一方で、山へのトレーニングも怠らなかった。国内でアイゼンを履ける期間は短いの、毎週のようにアイスのゲレンデや八ヶ岳に通ったりした。皆別々の山岳会なので、近くの山でも前日に現場まで行き、テントに泊まり親睦を図った。

五月に入り盛大な壮行会を開催してもらい、二十七日パキスタン

の首都イスラマバードへ飛んだ。現地での梱包作業は遠征経験者が多いのでスムーズに進み、六月五日灼熱のカラコルムハイウェーをチラスへと向かった。この辺りは砂漠地帯で草木が少なく岩の山が続き、荒涼とした景色の中をインダス川が悠々と流れていく。

十六日、四二〇〇mのディアミールBCに入った。ここは花畑がきれいでヒマラヤのBCでは一番美しいと言われているが今は雪の下に隠れている。

二十一日より登山活動を開始する。初日からC1とC2間のクローワール左上の懸垂氷河が崩壊し雪崩で行く。遠くから見ているから良いが、C2に向かう時は必ず通らなければならないので緊張してしまう。

二十四日、四九〇〇mの岩の基部にC1を建設した。雪崩、落石から身を守ってくれる唯一安全な場所である。

C2建設に向かった二十九日、核心部の鷲巢岩壁で2ピッチ程下にいる中村に目を向けると、鈍い音と共に突然墜落してルンゼの中へと消えていった。「やつちまったー」。標高差一二〇〇mのクローワールを滑り落ちていく中村の姿

が頭に浮かんだ。無線で皆に登山の中止を伝えると、田辺さんから「俺のところで何とか止まった」と返事が戻ってきてほっとする。止まった事も奇跡だが、五〇m位墜落してほとんど無傷だと聞いた時は、ホントに驚いた。事故原因は、

すだれ状に掛かっているFixロープを、新しい物と勘違いして古い物に掛けてしまい、切断したようだ。その日はそのまま岩壁を抜け、ナイフリッジ上にC2(六一〇〇m)建設。

七月一日、C3(六六〇〇m)



C2直下登高中の飯塚隊員

建設。次はアタックになるので、六八〇〇m位まで順応のために登り、ローテーションを終了する。BCに降りてきてから天気が悪くなり、アタック前の良い休養になったが、上部キャンプのテントが心配だ。

約一週間の天気待ち、七月九日、アタック向けBCを出発。毎回の事だが、軽量化を考えて余計な物は置いていく。食料、燃料も最低限しか持たないが、かなりの重荷である。これがシェルパレスの辛い所だ。

十一日、C3入り。十二日、C4へのルート工作を行い、十三日は雪のためレスト。午後になると雪崩の音が頻繁に聞こえてくる。

単独のフランス人が外でなにやら騒いでいるので、テントの外に出てみると、視界の利かない斜面を見上げて「アバランチ」と叫んでいた矢先に、デブリが音もなく押し寄せてきて、テントの数メートル手前で止まった。C3は斜面の小さな尾根の上にあるので、雪崩は届かないとたかをくくっていたが、甘かったようだ。テントを尾根の先端まで移動して、いつでも逃げられるように完全装備でテントに入った。夕方になり天候も回

復し気温も下がり始めてきたので、雪も落ち着くだろう。

十四日、C4向け田辺さんと先行してルート工作をするが、深い雪に悩まされる。雪崩の危険もあるので、気休め程度に岩から支点を取りながら進む。Fixの要らない緩斜面に入り、交代でラッセルしてC4(七二〇〇m)建設。十五日午前二時少し前にテントを出て頂上を目指す。満天の星空の下、トップを交代しながら進んでいく。突然前方からヘッドランプの明かりが見えてくる。信じられない事に、南壁から三十五年振りに登頂した韓国隊のアタッカーが、頂上を踏んで西面に降りて来たのだった。

彼らのトレースが頂上への良い道案内になったが、ラッセルは結構きつく、直ぐに息切れしてしまう。暫くすると大きな表層雪崩の跡があり、韓国隊のアタッカーが下りで起した事が一目で分かった。飯塚が斜面左の岩と雪のコンタクトラインにルートを取ろうとしたが、雪が不安定で駄目だった。しようがなく雪崩跡を右上ぎみに三〇〇mトラバース。ノーザイルなのでかなり緊張した瞬間だった。雪の状態が悪く、ここまで来るの



頂上にて岳連旗を掲げる飯塚隊員

に時間が掛かりすぎた。タイムリミットの三時を過ぎてしまう…。ザックを岩角にデポして、カメラと岳連旗をヤッケに押し込み、空荷で頂上をめざす。一番高いぼた山を目指す、どうやら頂上ではないらしい。二、三のピークをやり過ぐすとそれらしいピークが見えてきた。後ろに続く田辺さんと確信して真の頂上を目指した。

ついに登頂。不思議と嬉しさの实感はなく、下る事ばかり考えていた。頂上からの景色は三六〇度雲海の下で何も見えない。全員そろい直ぐに下山を開始する。皆が後続しているか振り向き、自分の足で下る事が出来るか確認する。吉田さんは目がかすんで良く見えないらしい。低酸素状態でよく起こる症状だ。ザックのデポ地まで

慎重に下ってもらう。そこからは念のためロープを結び後ろから確保する。何百メートル下ろしたか分からないが、田辺さんに確保を代わってもらった。この時自分もへろへろ状態だったので、体重差のある吉田さんが滑ったら止める自信が無かった。田辺さんのガイド技で長い距離をどんどん下ろす事が出来たが、C4のテントに着いた時は二十三分。長くて辛い一日が終わった。天気が良かったのでこんな行動が出来たが、吹雪にでもなった事を考えるとぞ

っとする。翌日も天気は快晴。吉田さんの目も良くなり、後は慎重にBCまで下るのみ。下のキャンプに降りれば降りるほど荷下げの荷物が増えていくので、ルンルン気分とは行かないが、最後の氷河を渡り切り雪の消えた花畑のBCに着いたときは、何ともいえない最高の気分だった。『今回の遠征はホントにラッキー続きだった』。帰りのキャラバンでそんな事を思いながらナンガのベースを後にした。

群馬県ナンガ・バルバット登山隊 2005

総隊長	星野 光
隊長	剣持 典之
副隊長	吉田 秀樹
隊員	田辺 治
隊員	中村 和貞
隊員	飯塚 敏宏
隊員	須永 俊介
BCマネージャー	田辺ともみ

も連れて行く。短い故ブッシュの引掛りも少ない、持ち歩きには造作もない。

春先、アイスクライミングの季節も過ぎて、比良は暮雪の候、谷川岳は危険地区条例で入山エリア狭小とお嘆きの岳兄諸氏には是非お試しあれ。きつと愉しみを盛り上げてくれる。ひとつの山で登りも下りもイケルから「一粒で二度おいしい」といふべきワザモノだ。

山もスキイも行きたいが日曜日は週一回しかないとか嘆く御立会いには、限られた山行日数を充実させるに受け合いだ。

今様短雪艇弥栄

近頃の愉しいショートスキイ

大間々山岳会 福田 純一

さあさ御立会い。手前取り出したるは長さ三尺三寸の短雪艇(ショートスキイ)。舌先三寸の話と笑わないで、よく聞いておいで。

この雪艇のデイメンションは1057595、短い割には幅広だから深雪でもけつこう浮く。前後に移動する締め具を最後位置にすべし。短いから抵抗少なく取り回しも宜しい。側縁は曲率半径R9にて切込む(カービング)からクルク

清流と緑の林を歩く

谷川岳自然観察会

群馬県連自然保護部 高橋 伸幸

◇開催日時

平成十七年七月二十四日(日)
午前八時～午後一時半

◇参加者

一般参加者 男性七名、女性五
名。(50代～70代)

実行委員 七名

講師 松岡 正氏(県庁OB)

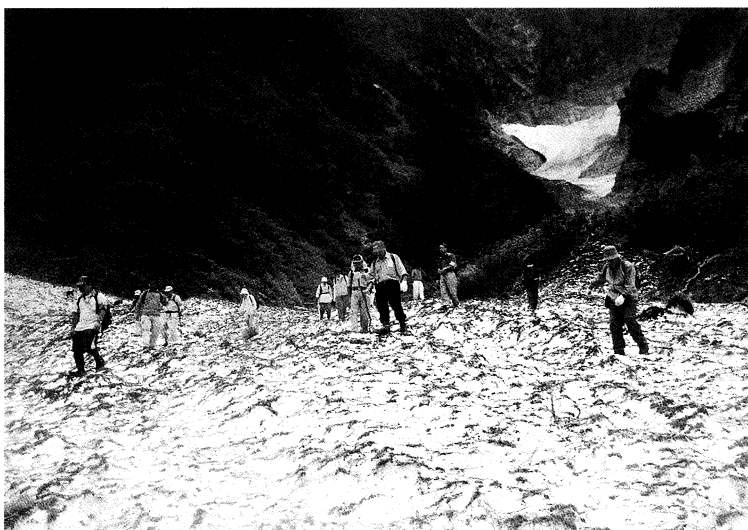
合計 二十名

◇概要

一ノ倉沢出合よりゆつくりと歩きながら、普段から目にしていなかったような草花や木々に目を向け、名前のもとより名前の由来や薬効毒性などの説明を受けました。参加者の大半の方がメモをとったり質問をしたりと熱心に勉強していました。

また、非常に珍しいシヨウキラを観察することができたり、一ノ倉沢では雪溪わきに季節遅れのシラネアオイも見ることができたりと、新しい体験や知識を得ることができました。

残念ながら今日の観察会では、野鳥や昆虫を見ることがほとんどできませんでした。ただその中で、渡りをする蝶として有名なアサギマダラを見ることができ、その美しい姿や生態には多くの参加者が感銘していました。



四時間ほどをかけて芝倉沢までを往復したあと、一ノ倉沢で昼食をとり、動植物や山のことなどの雑談をしばし交わした後、解散となりました。

昨年に比べ今年の参加者が少なかったのは、募集期間が短かったことや、宣伝媒体が少なかったことによると思われます。実行委員の準備の遅れによるものですが、次回への反省点にしたいと思います。

今回の参加者のアンケートでも、昨年同様に自然の中を歩くことを楽しんでいただけたようです。また、開催の回数を多くしてほしいとの声も多くありました。少人数でしたので和やかに進められたことも、参加者に満足していただけた要因だったかもしれません。

自然保護部では、今後もこのような活動を通じて、より多くの方々とともに自然を愛し守り育ててゆくよう努めたいと思っています。



2005年度

沢登り講習会報告

群馬岳連登山指導部 吉田直人

本年度の沢登り講習会は七月三十一日(日)、昨年同様、奥利根の湯の小屋沢川で開催された。例年八月最終日曜日の開催であるが、八月も終わりに近づくと少し寒くなり、参加者に、沢登りの醍醐味である、泳ぎ、シャワークライミング、滝つぼに落ちる?等を受講体験してもらうには、真夏の太陽が元氣な七月に、というのが主な理由である。

当日は、六時、奈良俣ダム入り口よりクルマで二〜三分のところの駐車場に集合。参加予定者のキヤンセルが五名ほどあり、初級・中級で十二名(岳連外二名)と、前回・前々回より少ない受講者で行われた。講師は、毎回お世話になっている山岳溪流会岩遊代表豊野則夫氏、ヤマセミ倶楽部代表竹内秀樹氏ほか三名、それに阿部委員長、吉田の、総勢十九名。阿部委員長と、前日通過した台

風の影響度合い(増水)の確認をしにクルマで偵察に行く。沢も若干濁り、水量も多い。豊野氏とも協議し、当初予定していた取水場からの取り付きを、少し上部にあ

る3メートルほどの小さな橋からに変更すれば大丈夫だろう、何しろ沢に沿って戸倉へ続く道路が走っているのでエスケープしやすいし、ということになり、各自適当に分乗し移動する。

天候は曇り。時折、日は射すものの肌寒い感じがする。全員でストレッチを行い、講習開始。人数の関係もあり、今回は初級・中級に分けず、全員で進行しながらの講習とした。内容的には、河原の歩き方から始まり、ゴーロウ状、

渡渉、ヘツリと進んでいく。特にヘツリでは、上部・上部へとヘツツて行く受講者が多く、講師から出来るだけ低い位置でヘツルよう、また、水中にもいいスタンスがあることが多いので足で探るよう、指導されていた。

昨年、中級者を対象に直登した15メートルの滝は、水量が多く、今回は中止したのは残念だった。泳ぎは、水量が多く流れも比較のある場所を右岸から左岸へロープを張り、実施。その後高巻きと続



き、更に懸垂下降と、本番に近い内容の講習会となった。

三時に終了し、希望者のみ湯槽曾で冷えた体を温め、解散。参加者から、沢登りにおける生活技術習得も含め一泊の講習を考えてほしいとの意見があり、次回開催の参考にした。

岳連トピックス

群馬県成年男子チーム

縦走種目で第二位

岡山国体山岳競技

十月二十三日、第60回国体山岳競技縦走種目で、鍋木毅(群馬県庁)、松本大(群馬大学)選手からなる群馬チームは第二位と健闘した。

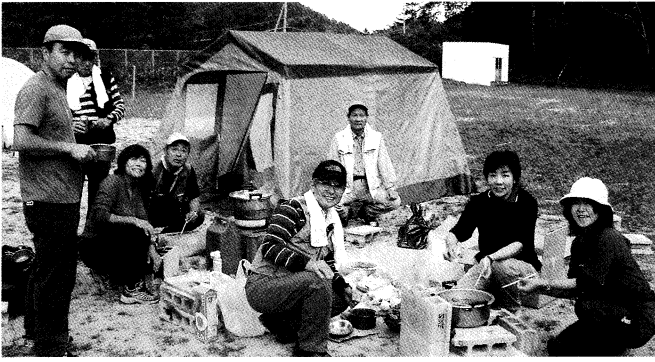
スポーツ功労者賞に

水野金太郎氏

優秀選手賞に

国体成年男子三選手

平成十七年度県体協会長賞に、群馬岳連監事・沼田山岳会の水野氏と、第60回国体山岳競技成年男子の鍋木毅・松本大・富澤太郎の三選手の受賞が決まった。



登山教室を終えて

群馬岳連登山指導部 高橋 守 男

中高年登山者の登山事故防止と、余裕を持ちながら山を歩き自然を楽しむことを目標に、今年度も恒例の登山教室が開催された。また

今年は、初めてテント泊を取り入れ、昨年までは講習で触れられなかった幕営技術を高めてもらうことも目標とした。参加者には、赤

城大沼湖畔でのテント生活ならではのゆったりとした時間や山仲間との交流を夜遅くまで楽しんでもらえた。

今年も、多くの指導員に協力してもらったことで無事教室を終えられたが、講師が固定化しない工夫の必要性を感じた。

五十三名の申し込みがあったが、四十二名の方が参加した。座学出席率は高かったが、テント泊時の欠席が多く、全回出席で修了証を獲得された方は二十六人と例年より少なかった。申し込みの平均年齢は五十八歳、最高年齢は七十九

歳、最少年齢三十五歳であり、参加者は、男性三十一名、女性十一名と女性の減少が目立った。

反省・課題としては次のようにまとめられると思うが次回へ生かしたい。

①募集方法

昨年の閉会式で預かった返信用封筒で実施案内を十一人の方に郵送したが、うち六名の方の参加があった。例年通り、新聞各社への掲載依頼をし、登山用具店へ案内要項を置かせていただいたが、更なる工夫が必要である。

②講習内容

1泊2日の実技は欠席者が目立った。宿泊実習は、内容は充実するが、日帰り二回とを組み合わせて、隔年で行うのが適当と思われる。

③実習地

実技講習に適した山の条件は

多々ある中、昨年の榛名山にない、県内各地から遠くなく複数コースが取れ、読図練習のしやすい地形の赤城山は使いやすかった。元の校庭は、初心者幕営講習地としては非常に使いやすかった。

④班分け

宿泊を伴うため班分けに苦労した。諸事情から変則的な宿泊があったり、宿泊の変更もあり、買出しなどに多少の不都合が生じた。女性だけのテントを作ったのは交流の面から良かったと思われる。

内 容

9月13日(火) 開講式・講義
「登山と体力」 講師 日向野
9月27日(火) 講義
「山で死なないために」

10月1日(土) 講義・登山実技
「地図の読み方・コンパスの使

い方」 講師 高橋

「長七郎山」

「幕営：赤城分校校庭」

10月2日(日) 登山実技

「湖畔北面の山々・薬師岳」

10月11日(火) 講義・閉講式

「質問に答えて」

「修了証交付」

講師 ◎は班長

阿部 源(群馬ミヤマ山岳会)◎

吉田 直人(境町山の会)◎

鹿田 雄三(高体連)◎

山田 精一(高体連) 事務◎

久保田一美(太田山岳会) 受付

登坂 巖(高体連) 会計

高橋 守男(沼田山岳会) 総務

日向野克己(高体連)

岡 重雄(高体連)

塩田 政一(片品山岳会)

関口 哲生(高体連)

角田二三男(高体連)

新井 好司(高体連)

対比地 昇(高体連)

清水 人志(群馬ミヤマ山岳会)

田中 弘(群馬むすびの会)

加盟団体紹介

太田山岳会

太田山岳会は、昭和三十三年六月に創立されました。創立時の目的は「自然を通じて精神的・肉体的・技術的修練を行う」「実践を通じて友情を深め、団結を強固にする」「岳人として品位向上を計る」というものです。その精神は受け継がれ、さらに「安全登山」を大きな目標とし、雪上訓練や救助訓練も行っています。現在の会員は三十名、OB会員は三十余名。個性豊かな会員が切磋琢磨しトレニングに励み、岩登り・沢登り・縦走・フリークライミング・アイスクライミング・山スキーなど、幅広く山を楽しんでいます。例会は毎週木曜夜8時半より、山岳会事務所で行っています。入会希望は随時、年齢・性別・経験を問わず受け付けています。

近年の山行

二〇〇三年五月劔岳八ツ峰、八月マッターホルン、十二月冬合宿槍ヶ岳
二〇〇四年三月浅草岳(スキー)、七月小川山(フリークライミング)



大間々山岳会

群馬県太田市宝町七十四の三
電話 〇二七六三三三三四〇
私たちの山岳会は大間々町体育

グ、九月尾白川本谷(沢) 十月一ノ倉沢本谷く3ルンゼ、十二月冬合宿北鎌尾根

二〇〇五年二月至仏山(スキー)、二月ノコ沢(アイスクライミング)、八月利根川本谷(沢) 他

代表者 町田幸男

協会の発足に伴い昭和二十七年に創立されました。当時の会員は大間々町近郊在住でしたが現在は県内外に約20名で月2回会長宅で集会をしています。

会員は中高年化し、エキスパートも不在となりましたが年齢相応に背伸びし過ぎないルートを主体に活動しています。近年の合宿は、春Ⅱ劔岳・源次郎尾根、大目岳、黒部別山、夏Ⅱ後立山、奥利根、平ヶ岳、劔岳・八ツ峰、冬Ⅱ大喰岳、爺ヶ岳、錫ヶ岳等です。岩・



氷はグレンデ的なショートルートで愉しんでいる昨今ですが、最近入会の若手が力をつけられるよう改めてアルパインへの導入を行う時になったとも考えています。あるいは岩壁登攀は難しいけど沢登りは好きっ！のメンバーもいます。沢を愉しむアイデアを岩遊の方々から頂くなどバリエーションルートへは他会の協力を得て実施することも多くなっています。延べ山行日数は平成15年341日、同16年311日となっています。(個人の

最高は年間に53日)

最近始めた形態としてフランスキーでの春山滑降があります。山スキーよりはるかに手軽で下山も楽しめる、平成18年春は常時活動メンバーの殆どがチャレンジする！と意気軒昂です。

晩秋のザイル祭において、当会の自慢は祝詞奏上です。その一節には「頂尔登里氏 身母心母清俊 赤伎真心平高女、人能世乎清俊正志俊 誠能道尔生久々修行能場止撰比云々(頂に登りて身も心も清き赤き真心を高め人の世を清き正しき誠の道に生きぬく修行の場と撰びて)と、登山がスポーツを越えた世界にあることを伝えています。

地域への還元事業として町民ハイクイキングは59回を数えました。雲上湿原の苗場山・会津駒ヶ岳・田代山、アルペンムードの金峰山・瑞牆山など魅力的コースに毎回好評です。他に一般人を対象に山歩き講座の開催、教育委員会主催のわんぱく教室講師要請に協力しています。

会長 藤沼隆男 C.L福田純一
(連絡先 大間々町大間々六五〇五 藤沼方

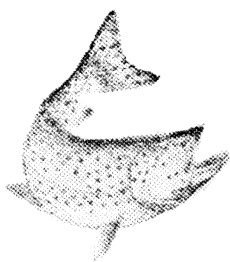
電話 〇二七七七三三〇九六、又は 福田 〇九〇八一〇二五五二四

味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

沼田市白沢町上古語父（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

高崎八幡霊園 墓石指定店
観音山聖地霊園
墓地取扱店



高

橋

石

井

工場・高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

携帯 090-8725-8456

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中央町18-8

TEL 0270-25-0272



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 沼田市利根町大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964